J

CD-S1000

スーパーオーディオCDプレーヤー

ヤマハスーパーオーディオCDプレーヤーCD-S1000をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書と「安全上のご注意」、保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

取扱説明書

保証書別添付

生命を吹き込む

弾き手の心を映し出すピアノは高度な技術力と人の芸術的感性が美しく調和して生まれます。

ピアノに楽器としての命を吹き込む最終工程が「整音」と呼ばれる作業です。

熟練した技術者が一音一音に全神経を集中し、弦を打つハンマーの硬さや弾力を微妙に調整することで 88 の鍵盤すべての音色と響きを完璧な状態に揃えていく、息の詰まるような時間。研ぎ澄まされた人間の感性が音を決めています。それはオーディオ機器でも何ら変わりません。試聴を重ね、あらゆる構成要素を入念に検討し、設計者が描く理想の音へ一歩、また一歩と近づいていくのです。

100 余年間、音と歩んできたヤマハの伝統が、すべてのヤマハオーディオ機器に息づいています。

オーディオの歩み

1920-1960s

- 1922 年：高級手巻蓄音機を世に出す

  1955 年以来、数々のハイファイ機器（レコードプレーヤー、チューナー、プリメインアンプ、コントロールアンプ、パワーアンプやスピーカー）を発売

  NS-20 モニタースピーカー

NS-20

CA-1000

1970s

- **CA-1000 プリメインアンプ**
  A クラス動作プリメインアンプのスタンダード

  NS-690 モニタースピーカー

  NS-1000M モニタースピーカー
  ハイファイファンに現在でも愛される伝説のスピーカー

  B-1 パワーアンプ
  全段に FET を採用した革新的なパワーアンプ

  C-2 コントロールアンプ
  ミラノ国際音楽ハイファイショーで最高賞を受賞

  NS-10M スタジオモニタースピーカー
  世界で最も普及したスタジオモニター

  A-1 プリメインアンプ

  PX-1 レコードプレーヤー
  ヤマハ初のリニアトラッキング式レコードプレーヤー

NS-690

NS-1000M

B-1

C-2

PX-1

NS-10M

1980s

- **B-6 パワーアンプ**
  X 電源、X アンプ搭載のピラミッド型パワーアンプ

  GT-2000/L レコードプレーヤー
  GT 思想を具現化した超精密重量級プレーヤー

  CD-1 初の CD プレーヤー発売（1983 年）

  B-2x パワーアンプ

  MX-10000 パワーアンプ、CX-10000 コントロールアンプ
  セパレート機器の能力の定義を変えたアンプ
  100 周年記念モデル

  AX-2000 プリメインアンプ
  128dB の高 S/N 比、デジタルダイレクト機能搭載

B-6

GT-2000

AX-2000

GT-CD1

1990s

- **GT-CD1 CD プレーヤー**
  一体型セパレート構造を持つトップエントリー式プレーヤー

  MX-1 パワーアンプ、CX-1 コントロールアンプ

2000s

- **Soavo-1、Soavo-2 ナチュラルサウンドスピーカーシステム**

  A-S2000 プリメインアンプ、CD-S2000 スーパーオーディオ CD プレーヤー

  A-S1000 プリメインアンプ、CD-S1000 スーパーオーディオ CD プレーヤー

Soavo-1

Soavo-2

CD-S1000

- ◆ 左右独立の電源回路とツイン DAC 構成により Lch/Rch が完全独立したシンメトリカル回路
- ◆ 巻線からデジタル／アナログ分離した電源トランス
- ◆ 静粛性に優れたヤマハオリジナルのローディングメカニズム
- ◆ ピュアダイレクトモード搭載
- ◆ 高品位なスーパーオーディオ CD 再生
- ◆ 振動を抑制する新開発の重量型脚部

■ 付属品

同梱されている付属品をご確認ください。

- 電源コード
- リモコン
- 単 3 乾電池（2 本）
- ステレオピンケーブル（動作確認用）
- 安全上のご注意（別冊）

もくじ

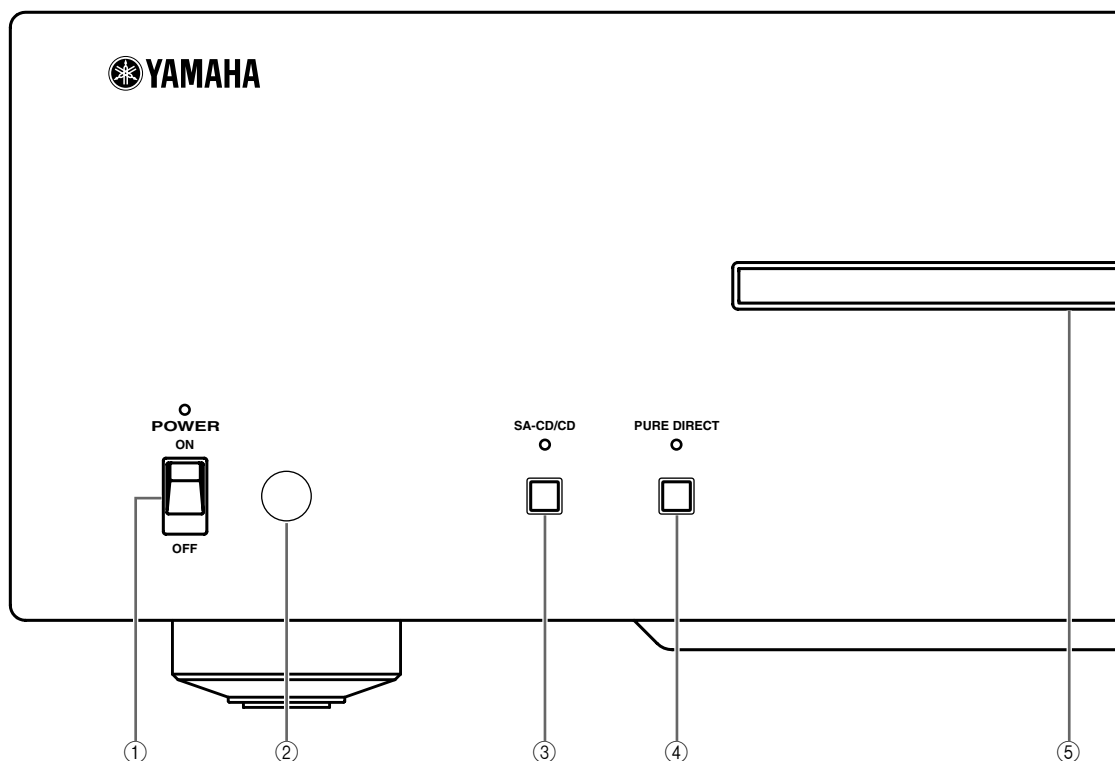
■ 本書の記載について

- 「ご注意」は操作、設定を行う際に留意すべき事項、 は知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 写真はイメージです。実際とは異なります。
- 本機をご使用になる前に、別冊の「安全上のご注意」を必ずお読みください。

CD-S1000
各部の名称と機能

この章では、フロントパネル、リアパネル、リモコンの各部の名称および機能について説明しています。

各部の名称と機能

■ フロントパネル

① POWER（電源）スイッチ／インジケーター

本機の電源を ON（オン）/OFF（オフ）します。

- 本機の電源がオンのとき、POWER インジケーターが点灯します。
- ディスクトレイにディスクがセットされた状態で電源をオンにすると、自動的に再生が始まります。

② リモコン受光部

リモコンの信号を受信します。

③ SA-CD/CD ボタン／インジケーター

ハイブリッドスーパーオーディオ CD の再生レイヤーをスーパーオーディオ CD と CD 間で切り替えます（19 ページ参照）。

- 再生の停止中に操作してください。
- スーパーオーディオ CD レイヤーを選択すると、SA-CD/CD インジケーターが点灯します。
- この設定は本機の電源をオフにした後も保持されます。

ご注意

- スーパーオーディオ CD レイヤーを選択している間は、音声信号はアナログ出力端子からのみ出力されます。
- 本機ではDSDマルチチャンネルで記録された音声は再生されません。

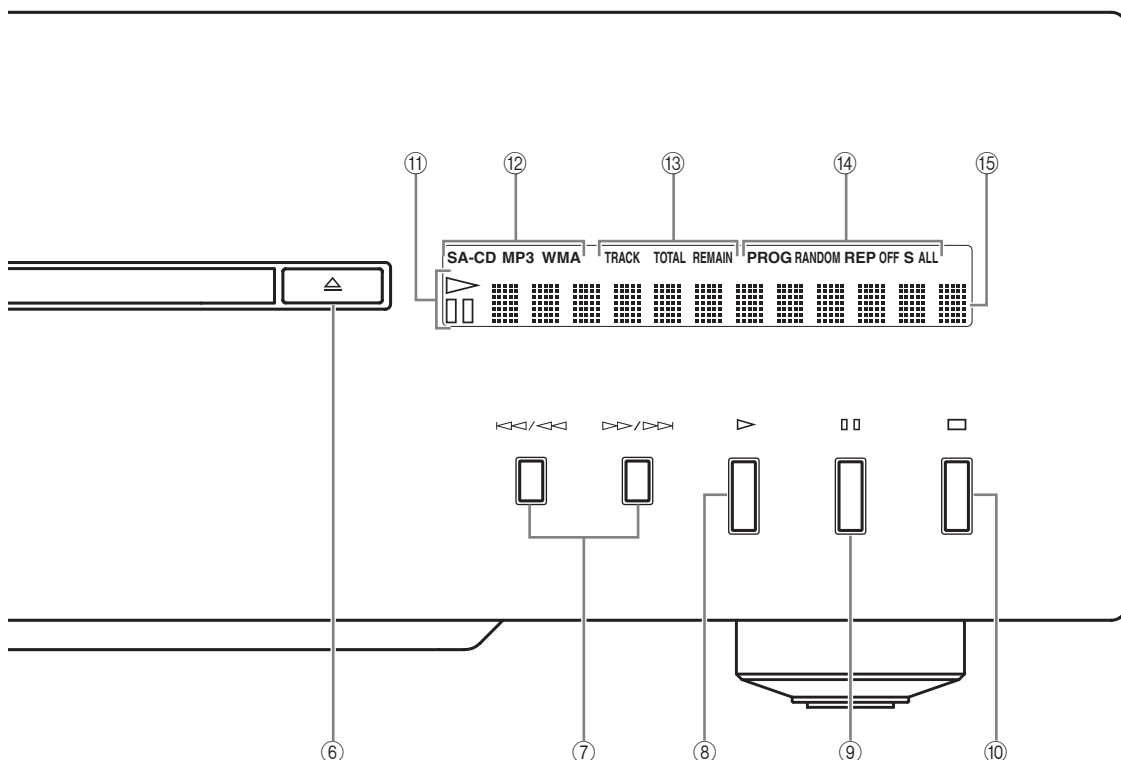
④ PURE DIRECT ボタン／インジケーター

PURE DIRECT をオンにすると、高音質な再生が楽しめます。
PURE DIRECT にすると：

- PURE DIRECT インジケーターが点灯します。
- リアパネルの光デジタル出力端子、同軸デジタル出力端子（8 ページ参照）から信号が出力されなくなります。
- フロントパネルのディスプレイには最小限のインジケーターやメッセージのみが表示されます。

- 再度押すと PURE DIRECT がオフになります。
- この設定は本機の電源をオフにした後も保持されます。

⑤ ディスクトレイ

ディスクをセットします。

⑥ ≜（開閉）ボタン
ディスクトレイを開閉します。

ディスクトレイは下記の方法でも閉められます。
- フロントパネルまたはリモコンの ▻ を押すか、またはディスクトレイの手前を軽く押す。
- リモコンの任意の数字ボタンを押す。

⑦ ⏮/⏪（頭出し／早戻し）、⏩/⏭（頭出し／早送り）
トラックの頭出しをします。
⏩/⏭：次のトラックに頭出しします。
⏮/⏪：現在再生中のトラックの先頭に頭出しします。
⏮/⏪（2 回）：前のトラックに頭出しします。
⏮/⏪ または ⏩/⏭ を押し続けると早戻しまたは早送りを開始します。

⏮/⏪ または ⏩/⏭ を押し続けると、早戻し／早送りの速度が４段階で切り替わります。

⑧ ▻（再生）ボタン
再生を開始します。

⑨ ▯▯（ポーズ）ボタン
再生を一時停止します。▻ または ▯▯ を押すと再生が始まります。

⑩ ▭（停止）ボタン
再生を停止します。

⑪ ▻（再生）/▯▯（ポーズ）インジケーター
再生／一時停止時に点灯します。

⑫ ディスクインジケーター
ディスクトレイにセットされているディスクの種類を示します。

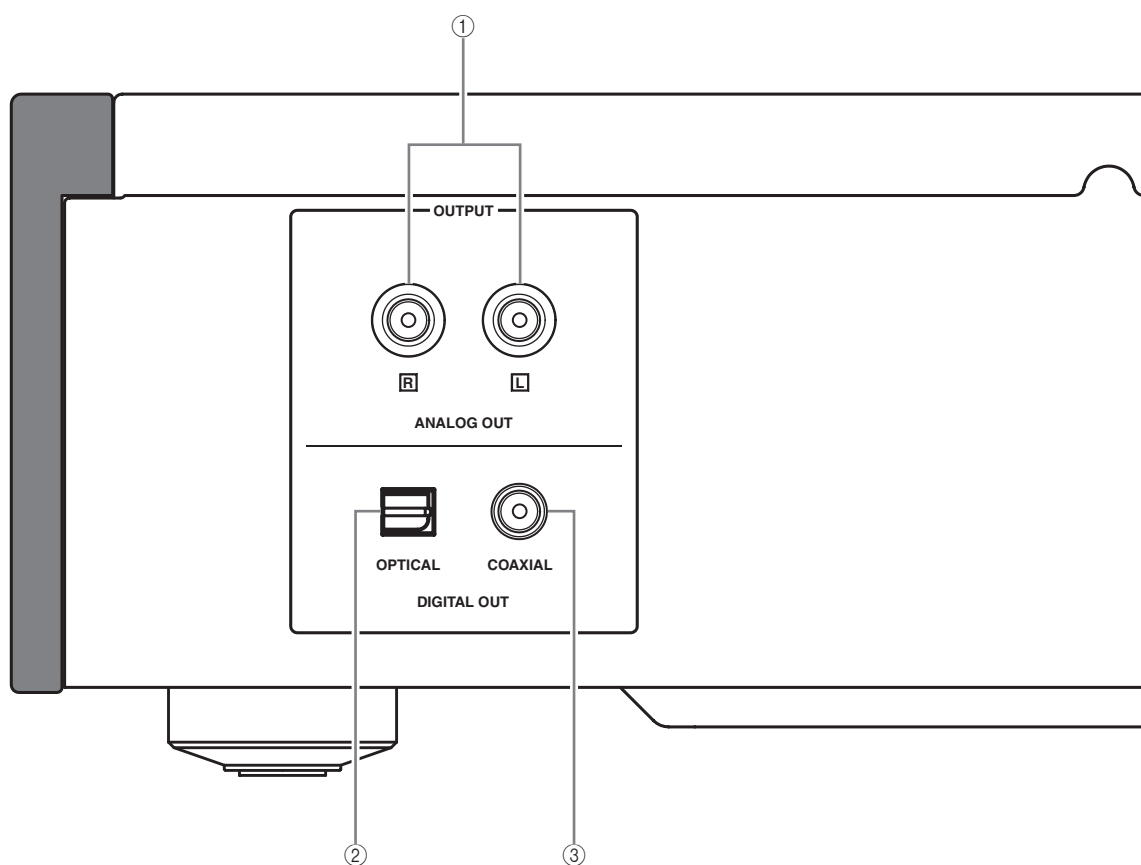
⑬ 再生時間表示インジケーター
ディスプレイに表示される時間表示の状態を示します（11 ページ参照）。

⑭ 再生モードインジケーター
現在の再生モードを示します（10、11 ページ参照）。

⑮ ディスプレイ

MP3/WMA の再生について詳しくは、20 ページをご覧ください。

各部の名称と機能

■ リアパネル

接続に関しては 14 ページをご覧ください。

① **アナログ出力端子**

② **光デジタル出力端子**

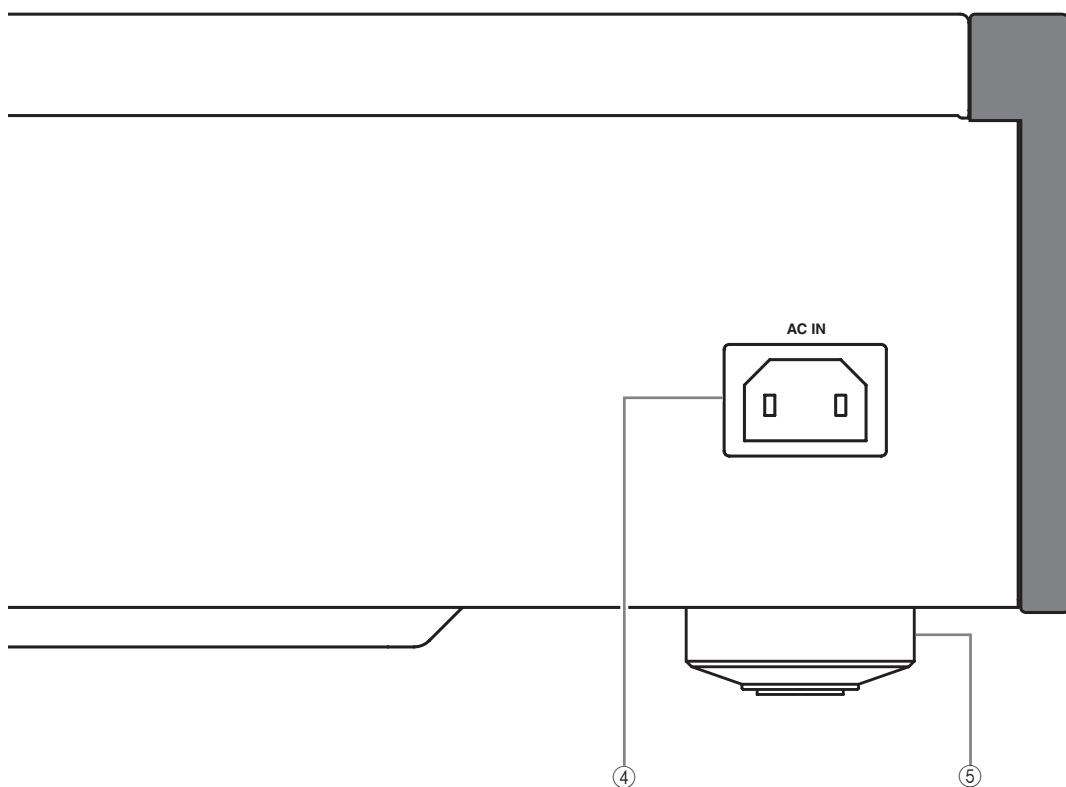
③ **同軸デジタル出力端子**

ご注意

スーパーオーディオ CD レイヤーを再生しているときやピュアダイレクトがオンのときは、音声信号はアナログ出力端子からのみ出力されます。

AC IN

④

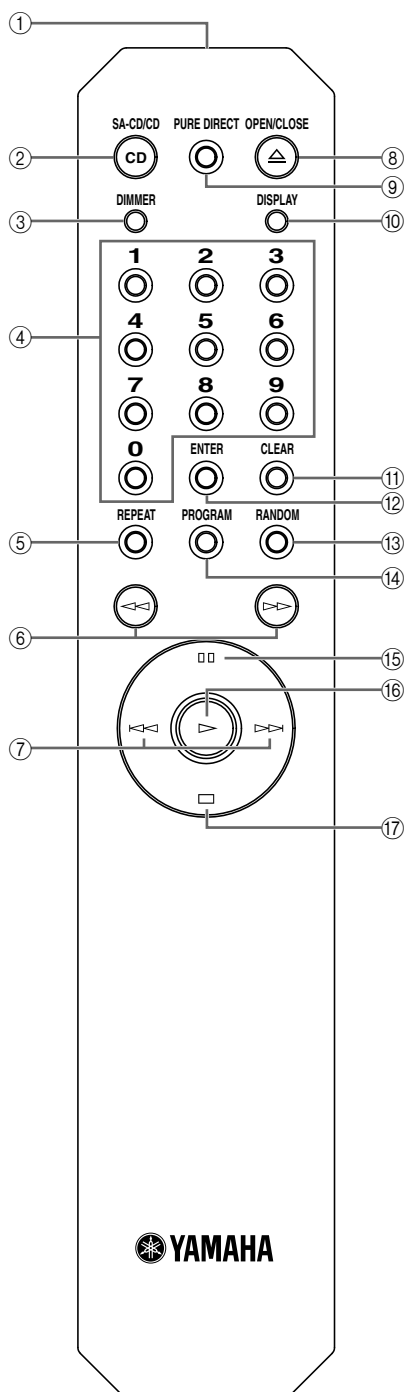
⑤

④ **AC IN（交流入力）**

付属の電源ケーブルを接続します。
接続に関しては 15 ページを参照してください。

⑤ **脚**

本機が不安定な場合には、脚を回して高さを調整できます。

各部の名称と機能

■ リモコン

① 赤外線送信部

本体に向けて赤外線信号を送出します。

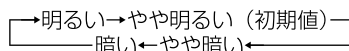
② SA-CD/CD ボタン

ハイブリッドスーパーオーディオ CD の再生レイヤーをスーパーオーディオ CD と CD の間で切り替えます（19 ページ参照）。

- 再生の停止中に操作してください。
- スーパーオーディオ CD レイヤーが選択されるとフロントパネルの SA-CD/CD インジケーターが点灯します。
- この設定は本機の電源をオフにした後も保持されます。
- スーパーオーディオ CD レイヤーを再生している間は、音声信号はアナログ出力端子からのみ出力されます。
- 本機ではDSDマルチチャンネルで記録された音声は再生されません。

③ DIMMER（ディマー）（調光）ボタン

フロントパネルのディスプレイの明るさを選択します。DIMMER を押すたびに明るさが下記の順番で変化します。

→明るい→やや明るい（初期値）
暗い←やや暗い←

この設定は本機の電源をオフにした後も保持されます。

④ 数字ボタン

トラック番号で曲を直接選択するときに使用します。

ご注意

この操作は MP3 ディスクと WMA ディスクでは無効になります。

⑤ REPEAT（リピート）ボタン

１曲または全曲をリピート再生します。再生中に REPEAT を押すたびに、リピート再生は下記のように切り替わります。

- REP S（一曲リピート再生）：再生中の曲を再生し終えると、その曲の先頭から再生を繰り返します。
- REP ALL（全曲リピート再生）：ディスクの最後の曲を再生し終えると、ディスクの最初の曲から再生を繰り返します。

ご注意

この操作は MP3 ディスクと WMA ディスクでは無効になります。

⑥ ◁◁（早戻し）、▷▷（早送り）

曲を早戻しまたは早送りします。

◁◁ または ▷▷ を押すたびに、早戻し／早送りの速度が４段階で切り替わります。

⑦ ⏮ 、⏭ （頭出し）

⏭：次のトラックに頭出しします。
⏮：現在再生中のトラックの先頭に頭出しします。
⏮（2 回）：前のトラックに頭出しします。

⑧ OPEN/CLOSE（開閉）ボタン

ディスクトレイを開閉します。

⑨ PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）ボタン

PURE DIRECT をオンにすると、高音質な再生が楽しめます。
PURE DIRECT モードにすると：

- PURE DIRECT インジケーターが点灯します。
- リアパネルの光デジタル出力端子、同軸デジタル出力端子（8 ページ参照）から信号が出力されなくなります。
- フロントパネルのディスプレイには最小限のインジケーターやメッセージが表示されます。

この設定は本機の電源をオフにした後も保持されます。

⑩ DISPLAY（ディスプレイ）ボタン

時間表示を切り替えます。再生中に DISPLAY を押すたびに、時間表示は下記のように切り替わります。

- 現在のトラックの経過時間（デフォルト設定）：フロントパネルのディスプレイには TRACK インジケーターが点灯します。
- 現在のトラックの残り時間：フロントパネルのディスプレイには TRACK と REMAIN のインジケーターが点灯します。
- ディスクの残り時間：フロントパネルのディスプレイには TOTAL と REMAIN のインジケーターが点灯します。

⑪ CLEAR（クリア）ボタン

プログラム編集モード時に、最後にプログラムされているトラックを消去します。詳しくはこのページの『プログラム再生』をご覧ください。

プログラム再生が停止しているときに押すと、プログラムされたトラックを全て消去できます。

⑫ ENTER（エンター）（入力）ボタン

プログラム編集モード時に、数字ボタンで選んだトラック番号を確定します。

⑬ RANDOM（ランダム）ボタン

ディスク内の曲を順不同で再生します（ランダム再生）。

ご注意

- この操作はMP3ディスクとWMAディスクでは無効になります。
- 再生を停止またはディスクを取り出すと、ランダム再生は解除されます。

⑭ PROGRAM（プログラム）ボタン

プログラム再生モードをオン／オフします。詳しくはこのページの『プログラム再生』をご覧ください。

⑮ ⏸（ポーズ）ボタン

再生を一時停止します。▷ または ⏸ を押すと再生が始まります。

⑯ ▷（再生）ボタン

再生を開始します。

⑰ □（停止）ボタン

再生を停止します。

MP3/WMA 再生に関して詳しくは、20 ページをご覧ください。

■ プログラム再生

プログラム再生モードでは、トラックをプログラムした順番で再生できます。

ご注意

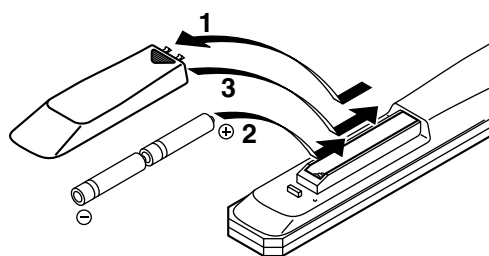
- この操作はMP3ディスクとWMAディスクでは無効になります。
- ディスクを取り出したり、本機の電源をオフにすると、プログラムされたトラックは全て消去されます。

1 再生を停止している間にPROGRAMを押します。
本機はプログラム編集モードにセットされます。

2 数字ボタンを使用してトラックを 1 つ選び、ENTER を押して確定します。

3 手順 2 を繰り返して次のトラックを入力します。
最大で 24 個のトラックまでプログラムできます。

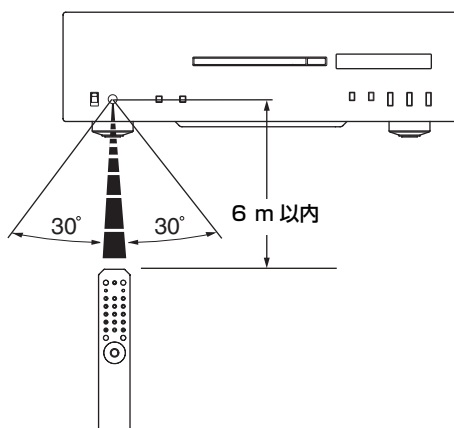
4 ▷ を押します。
プログラムした順序で再生が始まります。

■ リモコンに電池を入れる

1 バッテリーカバーの ▽ マークを押しながら、カバーをリモコンから取り外す。

2 電池ケース内に記載されている極性（＋／−）にしたがって、単３乾電池（2 本）を、電池ケースに挿入する。

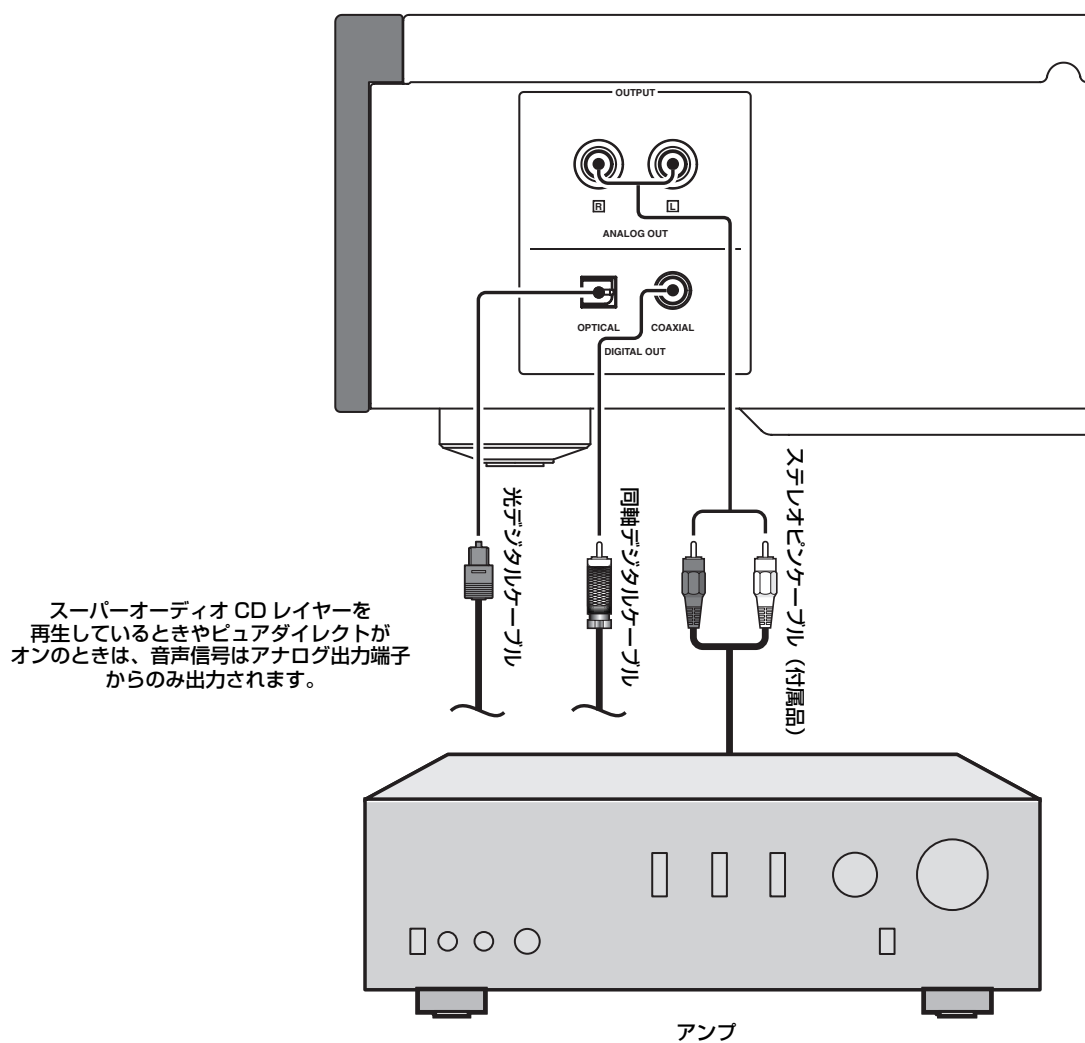
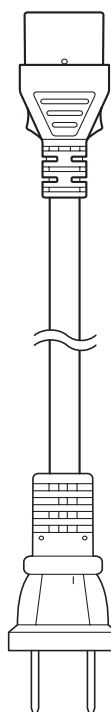
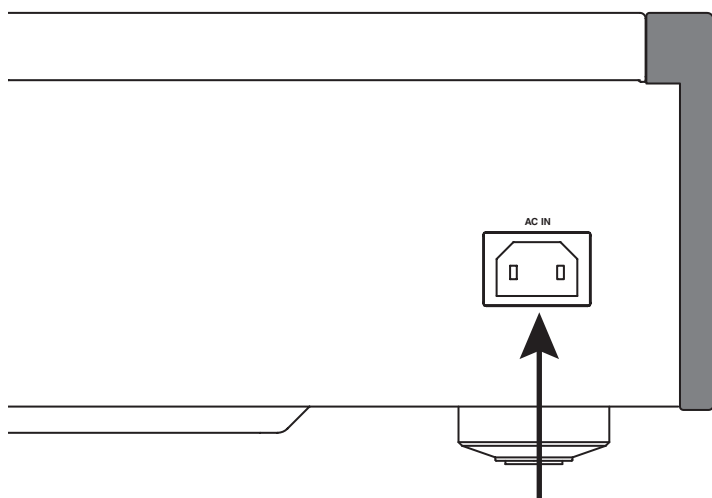
3 バッテリーカバーをリモコンに装着する。

■ リモコンを使用する

リモコンは指向性のある赤外線を送信します。リモコンは必ず本体のフロントパネルのリモコン受光部に向けて操作してください。

CD-S1000
接続

この章では、CD-S1000 と アンプの接続について説明します。

接続

OUTPUT
R
L
ANALOG OUT
OPTICAL
COAXIAL
DIGITAL OUT
光デジタルケーブル
同軸デジタルケーブル
ステレオピンケーブル（付属品）
スーパーオーディオ CD レイヤーを
再生しているときやピュアダイレクトが
オンのときは、音声信号はアナログ出力端子
からのみ出力されます。
アンプ

すべての接続が終了したら、電源コードを本機の AC IN 端子に差し込み、家庭用 AC100V、50/60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。

接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

■ CD-S1000 入力／出力対応表

ディスク／出力端子	SA-CD			CD	MP3/WMA	備考
	DSD ステレオレイヤー	DSD マルチチャンネルレイヤー	CD レイヤー			
ANALOG OUT	✔	—	✔	✔	✔	
DIGITAL OUT（光デジタル端子または同軸デジタル端子）	—	—	✔	✔	✔	ピュアダイレクトがオンのとき、音声信号は出力されません。

CD-S1000
仕様

この章では、CD-S1000 の技術仕様を掲載しています。

仕様

オーディオ部

- 周波数特性
  SA-CD .... 2 Hz ～ 50 kHz、（－ 3 dB）
  CD .... 2 Hz ～ 20 kHz
- 歪率 (1 kHz)
  SA-CD、CD .... 0.002% 以下
- S/N 比（JEITA）.. 113 dB 以上
- ダイナミックレンジ
  SA-CD .... 105 dB 以上
  CD .... 100 dB 以上
- 出力レベル (1 kHz、0 dB) .... 2.0 ± 0.3 V

レーザー部

- レーザータイプ
  SA-CD .... 半導体レーザー AlGaInP
  CD .... 半導体レーザー AlGaAs
- 波長
  SA-CD .... 650 nm
  CD .... 780 nm
- レーザー出力
  SA-CD .... 最大 5 mW
  CD .... 最大 7 mW

総合

- 電源電圧 .... AC 100 V、50/60 Hz
- 消費電力 .... 25 W
- POWER OFF 時消費電力 .... 0 W
- 寸法 (幅 x 高さ x 奥行き) .... 435 x 137 x 440 mm
- 質量 .... 15 kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

お手入れのしかた

本機を手入れするときは、ベンジンやシンナーなどの化学薬品は使用しないでください。表面を傷めてしまう恐れがあります。手入れは柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。

木が伸縮することにより、本体側面の板を固定しているネジが緩む場合があります。その場合は、ネジを締め直してください。

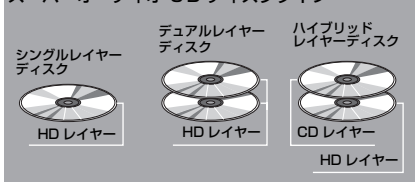
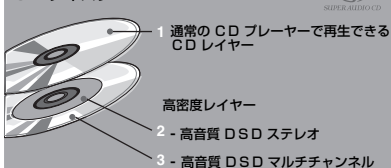
再生できるディスク／フォーマット

■ 再生できるディスクの種類

本機は以下に示すマークがつけられたディスクを再生できます。それ以外のディスクは絶対に本機にセットしないでください。本機は 8 センチ CD も再生することができます。

スーパーオーディオ CD

高音質な音楽情報が高密度に記録されたディスクです。スーパーオーディオ CD には、シングルレイヤー、デュアルレイヤー、ハイブリッドレイヤーの３種類のタイプがあります。ハイブリッドレイヤーのディスクには、１層のレイヤーに２種類のデータが記録され、もう１層に従来の音楽 CD データが記録されているため、通常の CD プレーヤーでも再生できます。

ご注意

- 本機ではディスクに含まれる文字情報は表示されません。
- 本機ではDSDマルチチャンネルで記録された音声は再生されません。

コンパクトディスク（オーディオ CD）

市販の音楽 CD として最もポピュラーなディスクです。

CD-R、CD-RW ディスク

ご自分で書き込んだ CD-R や CD-RW を音楽 CD として再生できます。MP3 または WMA 形式のファイルも再生できます。

ご注意

- 信頼できるメーカーのディスクを必ずご使用ください。
- ディスクやケースに下記のいずれかの表示のあるディスクをご使用ください。
  - FOR CONSUMER
  - FOR CONSUMER USE
  - FOR MUSIC USE ONLY
- CD-RまたはCD-RWはファイナライズされたディスクのみ再生できます。

CD-TEXT ディスク

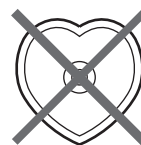
アルバム名、曲名、アーティスト名などの文字情報が記録されたディスクです。本機は CD-TEXT ディスクの音楽再生に対応しています。

ご注意

本機ではディスクに含まれる文字情報は表示されません。

ご注意 :
一部の CD-RW ディスクや正しく録音されていないディスクは、本機では再生できない場合があります。

誤動作を防ぐために :

- ハート型のディスクなど標準的でない形のディスクは、本機の故障の原因となる恐れがあります。
- ディスクにテープや紙などを貼らないでください。詰まったり、本機の故障の原因となる恐れがあります。

再生できるディスク／フォーマット

■ MP3 および WMA ディスクについて

本機では CD-R や CD-RW に収録した MP3、WMA ファイルを音楽 CD と同様に再生することができます。

MP3

MPEG-1 Audio Layer-3 の略で、音声データを圧縮するフォーマットの一つです。音楽 CD と同じレベルの音質を維持してデータ容量を圧縮することができます。

ご注意

- 本機では、MP3 ファイルをトラック名のアルファベット順に再生します。
- フォルダーとトラックの数は合計で 648（うちフォルダー数は最大 299）まで認識、再生することができます。フォルダーの構成によってファイル認識できない場合があります。
- ライティングソフトなどライティングの条件によっては、アルファベット順に再生されないことがあります。
- 本機は 44.1kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- 本機は 32、40、48、56、64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 kbps のビットレートに対応しています。可変ビットレートには対応していません。
- 本機は ISO9660 フォーマットのディスクに対応しています。
- ファイルに含まれる文字情報は本機では表示されません。

WMA

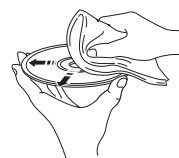
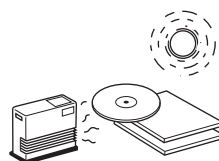
Windows Media Audio の略で、MP3 と同様に音声データを圧縮するフォーマットの一つです。
MP3 よりも高い圧縮率で、データ容量を圧縮することができます。

ご注意

- 本機では、WMA ファイルをトラック名のアルファベット順に再生します。
- フォルダーとトラックの数は合計で 648（うちフォルダー数は最大 299）まで認識、再生することができます。フォルダーの構成によってファイル認識できない場合があります。
- ライティングソフトなどライティングの条件によっては、アルファベット順に再生されないことがあります。
- 本機は 44.1kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- 本機は 48、64、80、96、128、160、192 kbps のビットレートに対応しています。可変ビットレートには対応していません。
- 本機は ISO9660 フォーマットのディスクに対応しています。
- 本機では、著作権保護された WMA ファイルは再生できません。
- ファイルに含まれるテキストデータは本機では表示されません。

■ ディスクの取り扱い

- できるだけディスクの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。

- ディスクは磨耗することはめったにありませんが、取り扱い中についた表面の傷によって、正常に再生できなくなることがあります。
- レーベル面に紙など (レーベル面用のシールも含みます。) を貼ったり、ボールペン等、先の固いもので文字を書いたりしないでください。
- 折り曲げたり、強い衝撃を与えたりしないよう注意して扱ってください。
- 演奏が終わったディスクは必ずケースに入れて保管してください。
- 信号記録面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。
- 記録面に指紋やほこりがついたときは、柔らかな布などで軽く内側中心から外側へ直角方向に拭いてください。ほこりや汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。

- レコードスプレー、帯電防止剤、またはその他の化学薬品などで絶対にディスクを拭かないでください。表面が侵されることがあります。
- 直射日光の当たる場所や、高温多湿な場所に長時間置くと、ディスクが変形したりして使用できなくなる原因となりますので、絶対に置かないでください。

- 8 センチ CD を再生するときは、ディスクトレイの内側の溝に置いてください。また、8 センチ CD の上に 12 センチ CD を重ねて置かないでください。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。その上で正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ音響製品サービス拠点まで、お問い合わせください。

症状	原因	対策	参照ページ
電源スイッチを操作しても電源が入らない	電源プラグが正しく接続されていない。	電源プラグをコンセントに差し込み直してください。	15
ディスクトレイが完全に閉まらない	ディスクトレイに異物が入っている。	ディスクトレイを確認し異物を取り除いてください。	—
ディスクを入れても演奏できない	ディスクに傷がある。	ディスクを交換してください。	—
	本機内部のレンズが結露している。	本機をオンにして 20 ～ 30 分待ってから再度ディスクを再生してください。	—
	ディスクが裏返しにセットされている。	ディスクのレーベル面を上にして入れてください。	—
	ディスクがひどく汚れている。	クリーニングしてください。	20
	本機が対応していないフォーマットの MP3 または WMA ファイルを再生しようとしている。	本機が対応しているフォーマットで記録されたディスクと交換してください。	20
	正しく録音されていない CD-RW ディスクを使用している。	正しく録音され、本機に対応したディスクを使用してください。	19
	本機が対応していない規格外のディスクを使用している。	正しく録音され、本機に対応したディスクを使用してください。	19
演奏が遅れて始まったり、正しくない位置から始まる	ディスクに汚れや傷がある。	ディスクをクリーニングするか、傷のないディスクに交換してください。	20
音が出ない	出力ケーブルの接続が正しく接続されていない。	出力ケーブルの接続を確認してください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	14
	アンプの操作が間違っている。	アンプの入力を確認してください。	—
デジタル端子に接続した機器から音声が再生されない	PURE DIRECT がオンになっている。	PURE DIRECT をオフにしてください。	6
	スーパーオーディオ CD レイヤーを再生している。	再生するレイヤーを切り替えてください。またはアナログ接続に切り替えてください。	6、10
音飛びをする	本機が振動や衝撃を受けている。	設置場所を変えてください。	—
	ディスクがひどく汚れている。	クリーニングしてください。	20
ブーンというハム音が入る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。症状が改善されない場合は、ケーブルに問題がないか確認してください。	14
チューナーにノイズが入る	本機とチューナーの設置場所が近い。	チューナーから遠ざけるか、または本機の電源を切ってください。	—
ディスクトレイから雑音がする	ディスクが変形している。	変形のないディスクに交換してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンではは操作できない	乾電池が消耗している。	乾電池を交換してください。	12
	操作する位置が本体から遠すぎるか、または角度が正しくない。	リモコンは本体から 6m 以内で、また本体正面より左右それぞれ 30°以内の角度で操作してください。	12
	受光部に強い日光や照明（インバーター蛍光灯など）が当たっている。	受光部に強い光が当たらないように本機の置き場所や方向、または照明の位置を変えてください。	—

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

本機の設置や設定、操作に関するお問い合わせ

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10：00～18：00　土曜日 10：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受付：月～金曜日 9：00～18：00　土曜日 9：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9：00～17：45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!

愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

J

スーパーオーディオ CD プレーヤー

安全上のご注意

ヤマハスーパーオーディオ CD プレーヤーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの「安全上のご注意」と取扱説明書、保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

(AV-1)

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ
水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
● 布やテーブルクロスをかけない。
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● 仰向けや横倒しには設置しない。
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右10cm、上10cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

ディスクの挿入口や放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。

手を挟まれないよう注意

ディスクをセットする際は、手をディスクトレイに挟まれないよう注意する。
閉めるときに挟まれて、けがの原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。
専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯・保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前には、音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

ディスクの挿入口には手を入れない。

本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。

禁止

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。

ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光が目に当たると、視覚障害の原因になります。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

■ 乾電池に関するご注意

- リモコンで操作しづらくなったら、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 単 3 乾電池をご使用ください。
- 極性（+/ −）があっているかよくご確認ください。乾電池の向きを電池ケース内の表示にあわせてください。
- リモコンを長期間ご使用にならないときは、乾電池を取り外してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状や色が同じものでも種類が異なるもの（アルカリとマンガンなど）があります。表示をよく読んで、種類の異なる乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池が液もれした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。

■ リモコンの取り扱いに関するご注意

- 本機とリモコンの間に障害物を置かないでください。
- リモコンに水などの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- リモコンを下記のような場所に放置したり保管したりしないでください。
  - 浴室などの湿気の多い場所
  - ヒーターやストーブの近くなどの高温になる場所
  - 温度が極端に低い場所
  - ホコリの多い場所
- 本機のリモコン受光部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていると、本機をリモコンで操作できないことがあります。このような場合は、照明の向きを変えるか、本機を置く場所を変えてください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。